

道標ない旅

～「自立」と「共生」を目指して～

南郷中学校

令和2年3月18日(特別号2)

校長 益田 孝彦 875-9494

◆◆ 卒業生代表の言葉 答辞 ◆◆

暖かい日差しに包まれ、桜の蕾が大きく膨らみ、吹く風は優しく祝福してくれているかのような今日3月11日、私たち三十九期生は、南郷中学校を卒業します。

卒業式の開催すら危ぶまれる中、こうして卒業式を挙げてくださりありがとうございます。ここに立ち、浮かぶ事は3年間のかけがえのない仲間たちとの思い出です。3年前の春、この制服に腕を通したときの感動と制服の重さは今にもなつて忘れられません。学校に続く坂道を登り、階段を駆け上り、校舎に入るころには、これからの希望、夢が叶ったような幸せな気持ちでいっぱいでした。入学式で聞いた効果は、今でも鮮明に覚えています。初めて会うクラスメイトは小学校まで違っていたのに、大きな見えない糸が、話しかけることすら戸惑ってしまいましたが、今ではどんな話でも周りに友達がいる。このことが今となってはとて特別な事のように感じます。何気ない日常が1番大切だと気付かされ、あの日々をもう一度願ってしまうような思い出です。明日からは会いたくても簡単には会えない、この現実がとて辛く悲しく、今の私にのしかかっています。体育祭や文化祭などの行事で毎日放課後まで練習したと、うまくいかずなかなか前に進めなかったこと、それでも前を向いて頑張ったことなど、これらの経験が今の私たちの絆と団結に結びついています。特に、最後の文化祭は最高学年と言うプレッシャーとプライドがあり、合唱が納得いかないことも多々あり、うまくいかなかった。言う気持ちは生々しく、練習した日々、辛いこともありますが、それ以上に一緒に居られたこと、練習できたこと、3年間一緒に生活する中で、みんながいつの間にか、お互いに心の支えになっていました。そんな仲間がいたからこそ、毎日が楽しくかけがえのないものになりました。

また私たちはこの3年間、平和学習に取り組んできました。この学年でなければ機会も少なく知ることもできなかった日本の過去と今。この学びは、私たちの未来に大きな糧を与えてくれました。

そして、私たちは、合唱や平和への思いを込めた訓読にも力を入れてきました。そんな私たちの最後の思いの一端を、「桜」の歌に込めます。先生方、今日一番楽しみにしてくれていた家族、いつも私たちを見守って下さった地域の方々、そしてこんな私たちを先輩と慕ってくれた在校生の皆さんに届くように歌います。

これが私たちの3年間の成長です。身の丈に合わなかった不格好の制服姿も、今では少し小さく感じてしまいます。この3年間未熟で、作文すら思うように描けない私たちはいつも厳しく、優しく、丁寧に指導してくださった先生方、私たちは今、自分の道を自ら切り開き進んでいきます。きっと、私たちの未来には計り知れないほどつらく苦しい時がやってきます。そんな時は、今ここにいた仲間、これから出会う新しい仲間と力を合わせて突き進んでいきます。私たちはここで大きく、たくましく成長することができました。中学校生活と言う人生の大事な成長のための時間を大好きな仲間と、先生方とそして誰よりも私たちが心配し、信じてくれた家族と過ごした事が、1番の自慢です。みんなと離れるのは寂しいですが、この3年間の思い出を力に変えてこれからも前に進んでいきたいと思えます。南郷中学校仲間を認め合える素晴らしい学校です。これからもこの南郷中学校の伝統を受け継ぎ、そして良き伝統が変わっていくことを願っています。南郷中学校のますますの発展を祈って別れの言葉とさせていただきます。

2020年3月11日

卒業生代表

◆◆ 卒業式は無事行うことが出来ました。 ◆◆

卒業生は3年間の誇りを胸に、堂々と卒業していきました。私にとっても南郷中学校最後の卒業式でした。ここでは、当日卒業生に対して贈った校長の言葉を紹介させていただきます。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。許された短い時間の中で、最後のメッセージを皆さんに送りたいと思います。

今回世界を襲った新型コロナウイルスは、皆さんの卒業式の様式まで一変させてしまいました。例年の通り在校生を前にして、南郷中学校の伝統を引き渡していく卒業式の重要な場面そして役割を、今回用意して上げられなかった点は、校長として最も残念なことです。だからといって、皆さん自身が、肩を落とす必要はありません。皆さんはすでに十分なほど南郷中のトッパリーゲーターとしての3年生の食いっぷりを伝えているのは間違いないです。後日にはなりませんが、今の瞬間をDVDに食いついて入ってみている1・2年生がたくさんいます。場所は離れていても、皆さんに心を寄せている地域の皆さんや保護者の方々がたくさんいるのです。ウイルス対策のためマスクを着用したまま、椅子の距離がお互い離れ、まとまることのできないこの環境の中で、さらに遠く離れたマイクに対して、歌声なんか伝えられないと考えるのが普通でしょう。しかし、3月2日の唯一許された短い時間の練習で皆さんに

